

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105156
法人名	有限会社 アクティブ ヒューマン ライフ
事業所名	グループホーム 甲突悠暮里
訪問調査日	平成21年3月10日
評価確定日	平成21年4月10日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670105156
法人名	有限会社アクティブ ヒューマン ライフ
事業所名	グループホーム 甲突悠暮里
所在地	鹿児島市郡山町68番地 (電話) 099-245-6030
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成21年3月10日

【情報提供票より】(平成21年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月20日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨軽量 造り		
	2 階建ての	2 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	前島医院 すみれ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や畑、小川などの自然に恵まれた環境に、デイサービスやヘルパーステーション、居宅介護支援事業所とともに、小規模多機能複合型介護施設の一つとして建てられたホームである。ゆっくりとした時間が流れる中、職員、利用者ともに笑顔が絶えず、思い思いに会話の弾む生活を送っている。接遇教育には特に力を入れており、職員は丁寧で優しい言葉遣いを心がけている。入浴時の同性介助など、利用者の尊厳に配慮したケアにも熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題について検討はなされているが、具体的な対策の実施までは至っていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については職員全員で取り組んでいるが、評価の意義の理解までは至っておらず、前回の外部評価における課題についても、改善への取り組みが十分とは言えない。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回、法人内の介護事業所全体について、地域の民生委員や家族代表者等に参加していただいて開催している。会議の内容としては、活動状況の報告が中心である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	2ヶ月ごとにホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動等について報告している。また、必要に応じて、ご家族の面会時等に状況報告を行っている。金銭管理状況については、法人事務所が一元管理しており、ご家族へ定期的に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の運動会や文化祭に積極的に参加しており、顔見知りや昔からの知り合いに会い、互いに懐かしみながら会話するなど、交流を深めている。

2. 評価結果詳細

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中での生活をイメージさせる理念が、法人全体のものとして掲げられている。今後、事業所独自のものを全職員でつくりあげていく予定である。	○	地域密着型サービスとしての機能を理解し、ホームにとって何が大切で現状に即したものであるかを考えて、独自の理念を作りあげることが望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りやミーティングの際に、施設長や管理者より理念についての意味や実践に向けた指導が行われている。また、職員全体で「その方らしく」を念頭においた、個別ケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や文化祭に積極的に参加しており、顔見知りや昔からの知り合いに出会い、互いに懐かしみながら会話するなど、交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については職員全員で取り組んでいるが、評価の意義の理解までは至っておらず、前回の外部評価における課題についても、改善への取り組みが十分とは言えない。	○	自己評価および外部評価の意義について理解を深めながら、評価を活かした取り組みを行い、サービスの質向上へつなげていただきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、法人内の介護事業所全体について、地域の民生委員や家族代表者等に参加していただき開催している。会議の内容としては、活動状況の報告が中心である。	○	事業所としての運営推進会議の意義・目的を明確にし、現状での会議のあり方を見直すことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険に関する申請等で、市の担当者を訪ねることはあるが、その他にホームの実態等について話をする機会は特にない。	○	市の担当者へ積極的に働きかけ、ホームの実態を把握してもらうことで、課題解決を図っていく取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2ヶ月ごとにホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりや職員の異動等について報告している。また、必要に応じて、ご家族の面会時等に状況報告を行っている。金銭管理状況については、法人事務所が一元管理しており、ご家族へ定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からの意見や要望については、面会時に管理者が積極的に声をかけ、聞き取りを行っている。さまざまな意見等が出され、それらについては申し送りノートを活用して職員へ周知徹底している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が、職員の抱える悩みや不安等に気づき、じっくりと話を聴くことで、職員のストレス解消を図っている。職員が代わる際の引継ぎ期間として2週間を設定していることで、利用者へのダメージを防ぐように取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々のケアの場面において、管理者よりさまざまな指導を行っているが、研修会や勉強会への参加について、計画的に行っているとは言い難い。今年度より、計画をたてて実施していく方針である。	○	職員の立場や経験、習熟度等に応じた研修計画を立て、段階的に力をつけていくような取り組みに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで他のグループホーム等との交流機会はなかったが、管理者研修をきっかけに、今後、管理者および職員がともに行き来し学んでいく機会を持つ方針である。	○	地域の同業者と交流する機会を持つことで、職員育成や緊急時の連携をスムーズにし、サービスの質向上につなげていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、利用者やご家族に見学の機会を作っていたことで、ホームの職員や雰囲気を理解していただけるようにしている。また、体験入居の受け入れ体制も整っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除といった家事作業や、鉢物や造花の手入れなどを、利用者からいろいろと教えてもらいながら一緒に行っており、喜怒哀楽を共にしながら支えあって暮らしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一緒に何かを行うことで、相手を理解するように努めている。利用者の行動の意味が十分に把握できない場合は、ご家族からの情報を得るなどして、理解した上で対応するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のミーティング時、職員間で利用者の状態について情報交換を行い、さらに利用者およびご家族の意向も踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月末、支援経過に利用者の状態をまとめ、短期目標の期間に合わせて介護計画の見直しを行うように努めている。認知症対応型共同生活介護評価表を作成し、計画の見直しに活用している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	下階にある通所施設での音楽療法実施をはじめ、医療機関の受診支援および入院を要する際などの連携を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が希望されるかかりつけ医との連携を行っている。また、週1回の訪問診療により、健康管理がなされている。受診の際は、ご家族にも同行してもらい情報共有に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化や終末期における対応についての意向確認を行い、看取りの方針についての同意書を受けている。その後も状態に応じて、その都度意向の確認を行っている。実際に、看取りまで対応した事例がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇面の教育が徹底しており、職員は、丁寧で優しい言葉遣いで利用者に接している。入浴および排泄に関しては、夜間を除き同性介助として利用者の尊厳に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムは大切にしつつ、可能な限り利用者のペースに合わせた対応を行っている。職員は、「時間で動かない」を念頭に置いて行動している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員が作成しているが、利用者の希望によりメニューが変更となることがある。調理も職員だけで行わず、好きな方は参加できるように声をかけている。片付けについては、職員が声かけしなくても利用者が自ら行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきの入浴となっているが、希望に随時応えられる体制をとっており、夜間の希望にも応じている。入浴拒否のある方へは、ご家族と協力して、入浴剤を使ったり音楽を流すなどの工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の好きなことや得意なことを把握して、必要な材料を目の届くところに準備した上で、やっていただくように依頼するなど、一人ひとりに合った役割、楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に2～3回程度、利用者の希望にあわせてドライブに出かけている。日常的には、敷地内を散歩したり近くの店に買い物に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は施錠していない。黙って外出される利用者については、無理に引き止めることはせず、しばらく様子を見ながら対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回実施し、その内1回は夜間想定の実施としている。防火管理者およびホーム管理者が中心となり、マニュアル作成をして職員間に周知徹底されている。近隣の方々にも訓練のお知らせを行い、理解と協力を求めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取状況は、利用者ごとに細かくチェックされている。献立のメニューについては、担当職員が栄養関係の研修に参加して、知識を習得するように努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が日当たりがよく、静かで居心地良い。利用者は日中、共用スペースにあるソファやテーブルで好きなように過ごされており、利用者同士の会話や職員とのコミュニケーションの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、洗面台、ベッドは、ホーム備え付けであるが、その他の箆笥やテーブル、電化製品などは、利用者の好みに応じてそれぞれに準備され居室づくりがなされている。		